

大森西地区公共施設整備計画に関する住民説明会（第4回）【議事要旨】

日 時 : 【一日目】令和元年9月20日(金) 19時～(20時50分終了)

【二日目】令和元年9月21日(土) 10時～(11時45分終了)

会 場 : 大森西特別出張所 2階大会議室

参加者 : 112名(内訳:①65名、②47名)

出席者 : 【企画経営部】河原田 施設整備課長、宮本 施設保全課長

【総務部】長沼 防災危機管理課長

【地域力推進部】近藤 地域力推進課長、田村 区民協働担当課長、
竹田 副参事(計画調整担当)、須田 大森西特別出張長

【福祉部】酒井 高齢福祉課長、曾根 障害福祉サービス推進担当課長

【こども家庭部】中村 子育て支援課長、津本 保育サービス課長

【都市基盤整備部】石井 公園施設担当課長

- 1 開会 須田 大森西特別出張所長
- 2 出席者紹介
- 3 計画説明 河原田 施設整備課長
- 4 質疑応答

【一日目：令和元年9月20日】

- こらば大森は、協働支援施設として大田区全域の区民活動団体や協働を伴う活動の支援機能も有しているが、本計画では「協働支援施設」という名称が記載されていない。どのような内容となっているのか。また、様々な部局が関わる複合施設となるが、区民協働担当が所管する範囲はどこまでか教えてほしい。(例えば、調理室や多目的室等)
- ⇒ グラウンド・体育館等、区民利用施設については、区民活動施設条例に基づき運営を行ってきたが、今後新たな形としてどのように運営していくべきか、今後ご相談させていただきながら検討していきたい。
協働支援施設については、従前の取り組みは重要と考えているため、これまでの活動を発展できるような形で継続していきたいと考えている。
- ⇒ 区民協働担当の所管範囲については、協働事業の担当となる。今後の施設のあり方については、施設運営方法とも関連するため、運用のあり方を含めて検討していきたい。

- スケジュールについて、取壊しが令和3年となっているが、来年（令和2年）のこらぼ大森はどのように活用されるのか教えてほしい。
- ⇒ 来年（令和2年）1年間については、現在と同様の手法で継続して運営していきたいと考えている。また、指定管理についても大森コラボレーションを前提に審査を進めていく。
- 大森西保育園について、園庭のない保育園を危惧しており、施設規模が拡充されることは良いことであるが、本計画では施設面積が1530㎡であり、現在の面積（996㎡）と比較し、ここまで大きくなるのか？
- ⇒ 本計画の中で園庭の拡充や保育定員数を増やしていきたいと考えている。定員増により、保育士や運営に必要な面積なども増えるため、拡充していく予定である。
- 大森西区民センターについて、本計画では2575㎡から1890㎡になる。現在、囲碁を利用させてもらっているが、みんな憩う場所として楽しんでいる。本計画を実現するには何かを削らないとできないと思うが、削るのはやめてほしい。
- ⇒ 既存施設が2575㎡となっているが、これは子ども発達センターわかばの家など、現在入っている他施設も含まれているため、基本的には現状より小さくなることはない。但し、体育室については、区民活動支援施設大森と兼用することになるため、体育室の総面積は多少縮小されると思うが、それ以外は同等の広さを想定している。
- 資料にはグラウンドが記載されていないが、なくなるということか？
- ⇒ 現在のこらぼ大森のような大きなグラウンドは設置しないが、オープンスペースとして一定のスペースは用意する予定である。グラウンドの代替としては、大森西区民センター跡地へ機能移転し大きな公園施設を予定している。そこで、グラウンド機能も補完できると考えている。
- 現在のこらぼ大森内グラウンドのように、大森西区民センター跡地の公園施設ではサッカーなどは使用可能なのか。
- ⇒ 今後大きくなった公園をどのように活用していくかについては、今後WS（ワークショップ）形式などを取り入れながら地域住民とともに一緒に考えていきたい。
- 本計画では、北側エリアが空き地になるのか？現在は建物が建ち並んでいるが、日照が増えるのか？
- ⇒ 日照については、あくまで配置案の段階であるが、設計にあたっては建築基準法の日影規制を遵守していく。
- 公園とグラウンドは全く異なる。グラウンドとしての機能は、一旦白紙になるのか？
- ⇒ 管理については公園となるため、現在のような利用形態とは異なってくる。
- 本計画が策定された経緯を教えてほしい。また、現在利用している者はどこへ行けばいいのか？本計画でも現状と課題において社会情勢の変化という点も挙げているが、スポーツは外せないと思う。

- ⇒ 現在のこらぼ大森については小学校の統廃合により廃校となった跡地を 10～15 年の期間で暫定的に利用している。暫定期間が経過した中で、周辺の公共施設の老朽化により施設更新の時期を迎えたため、地区全体の施設更新などを考えて検討した結果、本計画を策定した。
- 大森西区民センター跡地について、なぜグラウンドではなく、公園としたのか？
- ⇒ 大規模な公園施設の中で、グラウンドの機能も補完できると考えている。
- 要望となるが、現在のこらぼ大森にあるグラウンド機能は継続してもらいたい。今後の検討にあたっては、必ず地域の声を聴いてほしい。
- また、緊急措置として、工事期間中に利用できる代替案なども用意してほしい。
- ⇒ 今後の公園の活用については、多くの方からの声を生かして作っていきたいと考えている。
- 幼児から高校生まで、多くの子どもたちに利用してもらっており、家庭科室を活用した。食育活動も盛んに行われている。本計画では、食育活動ができる場所は確保されているのか。
- ⇒ 図面にある調理室のイメージは、配食サービスを想定したものであり、配食に値する調理室は衛生的に制御しないとイケない場となるため、食育事業として活用することは難しいと思う。一方で、子ども交流センターの中に別に調理室を整備することは厳しいと思うが、決められた面積の中で、どう諸室を配置していくか、今後どのような調理室が望ましいか精査していきながらレイアウト等を検討していきたい。
- 資料では子ども交流センターを「自由闊達な活動を行う場」と記載されているが、利用者にとっては活動だけでなく、交流の場としても捉えており、むしろゆっくり過ごせる空間が必要だと思う。設計するうえで、そういった捉え方・観点は持たれているか。
- ⇒ そのとおりだと思う。民間で法人が立ち上げた、児童館という意味合いでみると、地域の子育てを支援する施設であることに間違いはない。相談機能・憩いの場も含めた子育ての拠点と捉えている。認識は同じである。
- 現在のこらぼ大森にはテント等、備品を保管できる倉庫が多くあるが、本計画ではバリアフリーのためのスペースを含めた面積が加味されているか？
- ⇒ 倉庫等、備品の保管場所が多いのは認識しているが、全体面積に限りがある中で、今後も引き続き、潤沢に備品を保管できる倉庫を用意できるかということ、全く同様のスペースは難しい。今後の設計手法の中で、提案を受けながら活用を考えている。子ども交流センターご利用者については、多くのご意見を頂いているため、後日、全体説明以外にも説明の場を設けたいと思う。
- ⇒ バリアフリーについては、施設全体に関して設計を実施する。また、ユニバーサルデザインの観点も重視し、今後の設計段階では、点検会などの実施も検討していく。

- 協働支援施設について、こらぼ大森ができたときは、施設活用住民協議会や運営住民協議会を立ち上げて、地域主体で進めてきた。今後は、そういった地域の方たちの協議の場を考えているか？
- ⇒ こらぼ大森の成り立ちについては承知している。協働支援施設機能を出来る限り活用できるような運営のあり方を皆様と協議していきたいと考えているが、今後複合施設として協働支援施設以外に多様な機能が入るため、運営方法・あり方をはじめ、今後どのような協議のやり方がよいか、庁内連携して検討していきたい。
- 今回が 4 回目の説明会となるが、配置計画案が当初から変わっていない。配置については変わることはないのか。
また、本配置案について工事をⅡ期に分けて 2～4 階建てとしたメリットは何か？
仮に 4 階建てを 5～6 階建てにすれば経費、工期ともに縮減でき、敷地も出来る限り空けておいた方が効率的ではないか？
- ⇒ 施設の配置等については、今後の設計業務において検討していきたいと考えているが、今回、お示ししている配置案は、現在の各施設機能を止めないで工事を行うことを想定した案である。提示しているのは例であり、今後プロポーザルや設計者から違う提案が出て、条件を満たしていればそちらを採用することも考えられる。
- 8 月に入新井第一小学校の説明会があり、計 600 名の方々が参加されていた。そこでは、学校運営をしたまま、当初 7 年計画のところ、4 年間で施設竣工を実現する計画となった。本計画と学校改築計画は同時スタートだったはずなのに、なぜこんなに遅れているのか？工事期間の短縮をどう考えているのか？
- 大森西地域は大田区で高齢者が 4 番目に多い地域と言われており、バリアフリーがとても大切である。この施設が大森西全体をどう盛り上げていくのか。特にこれから増えていく高齢者への対策を明確に打ち出していきたい。
- ⇒ 設計業務への移行までに時間がかかったことをお詫び申し上げます。これまで説明会を重ねてきて、またご意見箱等を設置する中で、地域の方々からいただいた意見について、内部で検討してきた。
単なる施設の集合体となっては意味がないため、どう複合化により相乗効果を生み、大森西地域を盛り上げていけるかが今後の課題だと思っている。設計プランがある程度示せる段階で、関係施設がどう連携しながら運用していけるか等、皆様からご意見いただきながら進めていきたいと考えている。
- 複合施設については、六郷や羽田から始まっており、そこでは地域力推進センターという名称だが、結果、単なる貸館になっている。施設を建てることだけを考えているが、地域全体を考えてどう盛り上げていくかを考えていかないといけない。これからは高齢化社会といわれているが、高齢者への配慮がないように思える。現在、子ども食堂が流行っているが、それよりも求められているのはシニア食堂である。高齢者が集い会話しながら食事をする。大田区の重点プログラムに健康と元気とあるが、大事なのはいきがいと希望を持てる街をどう作れるかである。それをやるためには、調理室が一般開放されていないといけないが、配食サービスとどう

棲み分けをされるのか。

- ⇒ 高齢者人口がさらに増えていく中、高齢者施策は非常に重要だと認識している。地域包括支援センターや元気高齢者の活動場所に資するような場所を設置していく。今後、地域の中にこういった高齢者が活躍できる場所を用意できるか、引き続き検討していく。
- 複数の公共施設を一つの建物に集約するよりも、さまざまな施設が大森西地域全体に点在している方が良いと考えている。また、大森西保育園は昭和45年に建てられたとはいえ、平成5年に改修している。長寿命化手法が取り上げられている中で、なぜ建て替えるのか。
- ⇒ 建替えの経緯については、大森西地域における地域拠点の整備が大きな契機となっている。また、利便性の向上や多世代が一つの施設に集う機会の創出など、地域全体で考えていく整備計画だと考えている。
- ⇒ 長寿命化については、施設状況も考慮すると相当な工事を要するため、一度出て行ってもらわないと工事を行えない状況にある。今回については、新たに仮設を建てて工事する方法等も含めて考えた結果、本計画の策定に至った。
- 現在の大森西保育園は園庭にタイヤを敷き詰めて、自然と子ども達の体幹を強くする取り組みを施したり、いい保育ができており、他園からも見学にきている。本計画では園庭は現在と比較し、どの程度確保でき、プールはどのようになるのか。他事例でも施設が綺麗となり、定員も増えているが、活動場所の減少等、保育環境の質は大丈夫なのか。
- ⇒ 今回、保育園をさらに拡充し、定員も増やしていきたいと考えている。お話があった提案や想いを今後のプロポーザル等で引き継がれるよう検討していきたい。また、園庭における子どもの遊びについても、非常に注目を浴びている園であるため、これまでの取り組みは継続していきたいと考えている。
- 先ほどから「皆さんの意見をきいて」というが今この場で言わないと計画に反映されないのか？WSという話も出たが、今後、具体的にどのように皆さんの意見を吸い上げて計画に反映していこうと考えているか？
- ⇒ プロポーザルの実施にあたり、選定の基準を示していくことになるが、その際には行政としての考え方の中から詳細な諸室の内訳を提示する。しかし、プロポーザル前に皆様に詳細な諸室条件等を示すことにより、特定の設計者に情報が漏れると公平なプロポーザルが出来なくなる可能性があるため、公告後に、施設ごとに意見を聞いて、部屋割りを含めて設計者とともに考えていきたい。また、公園については今回の複合施設の建設とは別にWS等、意見の集約の仕方も変えていき、どういう公園が理想なのか、様々な意見を聞きながら進めていきたい。
- WS等を進めるにあたって、具体的な手法は考えているのか。(複合施設含む)
- ⇒ 複合施設に関しては、WS形式ではなく、各施設団体に対して、運用方法を含めた意見交換をしたいと考えている。

- 4F建てを想定しているが、現状より建物は高くなるのか？具体的には何m程度か？
⇒ 建物の高さについては、一般的には階高 3.5～4 m程度になると想定される。
詳細については設計に入らないと出てこないが、4階建てであれば、同等レベルと
思っただいて構わない。
- 工期をⅡ期に分けるとのことだが、予算はどの程度か？
⇒ 設計委託料については、概略の大きさが分かれば算出できるが、具体的な工事費に
ついては、設計の中で具体的に積算していく中で決まっていく。
- 現在の大森西区民センターの機能（風呂、カラオケ、囲碁など）が継続されていれ
ば充分である。
⇒ 今後、高齢者施設としては、地域包括支援センターと高齢者の活動の場として
シニアステーションの一体的整備を進めている。介護予防活動の充実の観点から、
現在の老人いこいの家とは趣は異なる。また、活動後に汗を流してもらうための
シャワーの設置は考えているが、お風呂等、入浴設備の整備については現在考えて
いない。
- 昨年、計3回の説明会が開催され、意見箱を含め、多くの要望が出されたと思うが、
本計画にはこれらの要望は入っているのか、どう反映されているかよく分からない。
⇒ 皆様のご意見をどう吸い上げたかについては、ご意見箱を通していただいた
ご要望については、ホームページで公表・回答させていただいた。また、プロポ
公告後に、詳細な諸室の内訳が出せる。そうすれば、利用施設ごとに、要望がどの
ように生かされているかについても、より具体的に説明できる。

【 二日目：令和元年9月21日 】

- 本計画では大森西保育園は現状の 1.5 倍程度の規模となるが、今後、保育ニーズが変化した場合においても見直しが行われる施設であることが望ましい。また、商業施設などでは屋上等にフットサルコート等、運動施設を設置しているが、既存施設に縛られず、そのような発想は考えていないのか？
 - ⇒ 今後大田区の公共施設整備にあたっては、多様なニーズを吸い上げながら皆さんのイメージにあった整備ができればと考えている。保育ニーズについてはその時々に合わせて対応をしていく必要があるが、大森西保育園については、定員の拡大を検討している。屋上の利用については、今後設計段階で検討することとなるが、一般的には受水槽やソーラーパネルの設置などが主流だが、その中で、空き状況によって利活用を含めた検討を行っていききたい。

- 本計画の策定にあたって、視察はされているのか？
体操では普段 40 人以上集まっているが、活動状況等は把握されているのか？
 - ⇒ 大森西特別出張所が大森西区民センター等を管理しているため、職員を通して、活動内容等、実態について把握している。但し、実際に活動状況を直接、詳細に把握できているわけではないため、利用の流れ・実態等については是非ご意見をお寄せいただければ嬉しい。

- 現在、こらぼ大森で活動しているスペースなどは最後まで残してもらいながら、工事を進めてもらえるのか。
 - ⇒ 基本的には、現在のこらぼ大森での活動は継続していきたいと考えているが、面積には限りがあるため、施設規模については多少の変動はあると思う。また、工事期間中に活動が休止してしまうのではとの声もあるが、現在、活動を休止しないで工事を行えるような工事手法を考えている。

- 工事期間中における防災・避難について、どのように考えているか？
 - ⇒ 現在、災害時における避難所機能については校舎や体育館の活用を想定しているため、工事期間中において、どうしても収容力が落ちてしまう時期が生じる懸念はある。そこで、地区内の私立高校とも防災協定を結んでおり、地区全体で防災力が落ちないように回していきたい。具体的な方策については、地区の防災担当の特別出張所と連携して対応していく。こらぼ大森には、学校職員がいない代わりに、区の防災拠点職員を配置しているが、今年度からはその職員も増員している。建設中も継続して対応をしていく。

- 本計画は、周辺施設を一か所に集約させることが前提で検討が始まったのか？
または複数案の検討のうえで、本計画となったのか教えてほしい。
 - ⇒ 大森西地区において、多くの公共施設が更新時期を迎えている。また、こらぼ大森については、当時、区内 4 校の統廃合に伴い、10～15 年を目途に暫定利用として現在の運営が始まり、併せて暫定利用期間の終了時期も迎えることとなった。そのような背景の中で、各施設が継続して運営しながら、施設回しができるか鑑み、

検討を重ねてきた。

- 本計画では、配食サービス用の調理スペース、食堂を兼ねた多目的スペースを想定いただいているが、会食ができるスペースができる嬉しい。また、工事期間中において、配食サービスが滞ることがないような工事手法を取り入れるとの説明があり、安心した。
 - ⇒ 食堂兼多目的室については、既存の方だけでなく子ども交流センターの利用者を含め、タイムシェアを行い、より多くの方が使えるように工夫していきたいと思う。
 - ⇒ こらぼ大森の暫定利用期間終了後においても、これまでの地域の方々の活動・歴史から可能な限り、皆様の期待に応えていきたいと考えている。また、将来を見据えた施設整備について100点満点をいただくことは難しいが、可能な限り、複合化のメリットをどのように活かしていけるかを考えていきたいと思っている。
- 複合施設の理念は、ワンストップサービスの提供や交流と謳っているが、実態は雑居ビル化している。ワンストップサービスの実現に向けては、全体を統括する部署をはっきりさせていくこと、また様々な機能を把握しているコーディネーターの存在が重要であると思う。その点について、どのように考えているか？
 - ⇒ 複合施設の管理について、色々な部局が関わる中、企画経営部が中心となり、リーダーシップをとっていく必要があると考えている。また今後は縦割りではなく、横の連携も意識し連携しながら、相乗効果を生み出せるように検討していく。
- 体操や骨密度調査など、健康相談会を実施しており、毎回15~16人参加している。老人は畳の部屋で体操・健康相談をしたり、ゆっくりおしゃべりすることが認知症予防への重要な対策となる。新たな施設では、どこで開催できるのか教えてほしい。
 - ⇒ 畳の部屋については、現在、本配置案では2階・4階の区民活動支援施設大森内で考えている。多目的室は200㎡程度を想定しており、本日の会場より大きい空間になると思う。その中で、畳を収納可能なものにして、用途や時間によって使い分けるなど、様々な利用方法を設計の中で検討していく。
- 芝生や植木が全部なくなると聞いているが、どういう風になるのか？
 - ⇒ 樹木について、建設する場所にぶつかる場合は、伐採や移植しなくてはならない。しかし、大田区では樹木に関してはすべて伐採するわけではなく、樹木医の診断を参考に移植、伐採、新たな植樹等を考えている。
- シルバー人材センター大森西作業室は、建設中に継続して利用できるか？
 - ⇒ 継続した利用が可能である。但し、シルバー人材センター大森西作業室については、現在の計画では、こらぼ大森内で別の諸室へ引越して、完成後に新棟へ引越しを想定している。
- こらぼ大森と大森西区民センターを一つの施設（体育館含む）にまとめる計画であるが、各施設の現在の利用状況等を踏まえたうえでの計画なのか？施設が新しくなれば、その分、利用者数も増えると思う。施設竣工後の利用状況について、どう

見込んでいるのか？

- ⇒ 現在の利用状況については数字として把握しており、体育館等、非常に稼働率の高い諸室であることは認識している。利用する用途に応じて、体育館を二つに分けて利用、多目的室や集会室に鏡を入れて幅の広い用途で多目的に利用できる工夫などを行いながら対応していきたい。
- 大森西特別出張所は21もの町会を抱えているが、本計画での施設規模で足りるか？
- ⇒ 現在の特別出張所スペースについては、割と広々と使える規模であると感じている。但し、青少対などの資材・物品の保管場所などもあるため、今後、適正な施設規模と用途を地域の皆様と話し合いながら決めていきたい。
- 本計画について、子どもの視点をもって進めていただきたい。例えば、開桜小学校に放課後ひろばとして学童機能を移設することになっているが、子どもの居場所が狭くなっている。当時、学校の統廃合の際は、こらぼ大森が設立されて良かったが、もう少し子どものことを考えた計画としていただきたい。
- ⇒ 開桜小学校内の放課後ひろばの整備については、安全・安心な子どもの居場所の確保や、学童機能と児童館機能を一体的に整備していくことを目的としている。メリット・デメリットはあるが、限られた場所の中で工夫しながら、各々がうまく機能できるよう進めていく。
- こらぼ大森設立当初は、区民活動支援施設と協働支援施設の2本柱としてやってきたが協働支援という言葉が抜けているように見える。協働支援施設は継続されるか？
- ⇒ 協働事業の継続については、今までの歴史的経過を含めて尊重すべき事業として捉えている。これからの時代は区民活動があって、行政も地域の一つのプレーヤーという時代がくると確信している。どのような事業が引き続き必要になるかについては、継続維持という方向で検討していく。
- 現在、おたオーガニックファームは、1年契約であるが、5人の地元のお母さんが日替わりで店長をしている。その人たちの雇用も守っていかなくてはならない。区民活動の経験がない中で、お客さんとの交流の中で、地域力応援基金への申請につながるほど育った例もある。暫定利用ではあるが、実績としてどう捉えているか？
- ⇒ 相談支援として団体の育成をいただいている経過も承知している。但し、法的な手続き、応援基金がなくても継続するための自立の取り組み、効果的な広報の在り方など課題がある。課題解決に向けて、引き続き、区にも協力いただき、ともに力を上げていただければと思う。
- 配食サービスが継続できるのか危惧していたが、調理室の設置が予定されており安心した。また、調理室等はタイムシェア前提になっているのか？
- ⇒ タイムシェアについては、運営の話となるため、今後の話し合いの中で最適な運営方法について検討していく。また、食堂兼多目的室については、子ども交流センターとのタイムシェアが前提とせざるをえないかと思う。

- 大森西保育園、大森西特別出張所、地域包括支援センター等あるが、おおよそどの程度の施設規模となるのか？
- ⇒ 施設規模については、各施設、前提となる試算はあるが、設計後に出てきたものを土台にして検討していきたい。
- ⇒ 先ほどより、皆さんの意見を取り入れていく旨、説明しているが、本日示した大枠の面積は、これまでの住民説明会や意見箱などをもとに検討した結果である。また詳細な諸室等については、今後設計プロポーザルの前提条件として提示することとなるが、公平性を担保する観点から、現在は公表できない。公表後に、施設ごとに詳細をお知らせし、それをもとに意見交換をしていきたい。
そこで、まとまった意見を集約し、反映できるものは、基本設計に生かしていければと考えている。
- 本計画では大森西特別出張所跡地の活用に合わせて沢田東児童公園がなくなる計画となっている。公園がなくなるということは、今までの町会活動が継続できなくなるので、今までの活動が継続できるような環境を整備してほしい。また、避難所機能についてもしっかりとやっていただきたい。地域防災や地域コミュニティについてもご理解いただいたうえで設計を進めてほしい。
- ⇒ 現在、(仮称)大田区子ども家庭総合支援センターを大森西特別出張所跡地に建てるためには公園部分を敷地面積として含めないと難しいため、現在地元町会と調整中である。
区では現在地に公園がなくなった場合に、いかに継続して町会活動が続けられるかを検討しており、複合施設敷地内に(仮称)沢田東ひろばを考えている。(仮称)沢田東ひろばでは、公園機能が補完できると考えており、市民消防隊倉庫等をはじめ、町会活動の継続も可能となる。避難所や防災機能についてもなくなることはないが、今後の工事工程によって変動が出てくる。
- 諸室のタイムシェアや共有に関する考え方はよく分かるが、運営を含めて設計してほしい。例えば、用途に応じて、畳の設置が可能な設えとする等の話があったが、畳の上げ下ろしは誰がやるのか。運営・動線を考慮した設計をお願いしたい。
- ⇒ 利用できるところは共有して、限られた面積を有効的に活用していきたい。一部分を畳部屋として残したり、電動で出し入れできる可能性の検討、利用方法についても皆様の要望を受けて検討していきたい。
- 本計画について、まだまだ周りで知らない人も多いと思う。
- ⇒ できるだけ多くの方に知っていただきたく、説明会の開催にあたっては、特別出張所に依頼して町会回覧、施設内への掲示やビラの設置等を行っている。今回、周知が足りないという意見は承ったため、周知方法や周知期間も含めて今後の課題として検討していく。
- スケジュールについては、これに縛られず、拙速にならないようにしてもらいたい。地域を大局に考えて進めてもらいたい。

- ⇒ 設計等については、ある程度のスケジュール感をもって進めていかなければならないが、地域住民や施設利用者等、地域の声を聞くことが不十分等あれば、その期間を延ばしていかなくてはならないことも考えられる。工期についても設計が完了しないと見えてこない。まずは設計の中で、ある程度スケジュールは切りながらも地域の声を聴きながら進めていきたいと考えている。
- 現在のこらぼ大森内の芝生グラウンドは地域の癒しになっている。グラウンドがなくなってしまうのは寂しく残念であるが、仕方がないことである。しかし、合理化や機能だけを考えるのではなくて、いかに住民が健全に生活を支えられる環境づくりをしてもらいたい。また、屋外スペースとして、(仮称) 沢田東ひろばと大森西保育園の園庭があるが、一体的なオープンスペースにしてほしい。
- ⇒ 環境維持や使い勝手についても考えていきたいと思う。また、オープンスペースについては公園と同様の活用を想定している。保育園の園庭については、児童の安全の観点から(仮称) 沢田東ひろばとの一体的な利用は難しいと考えている。
- 延床面積 7800 m²は、建物全体の延床面積なのか？
- ⇒ 想定配置図の総計となるが、屋外スペースは含まれていない。

以上